

保育者養成課程における 子ども向けコンサートの取り組みとその意義 ——「こどもの国」における音楽コースの活動を通して——

The Purpose and Practice of Concerts for Children
in the Childcare Worker Training Course
—— Through the Music Course Activity at “Kodomo no Kuni” ——

石 田 敏 明* 橋 本 卓 三*
Toshiaki ISHIDA Takuzo HASHIMOTO

I 研究の目的と方法

1-1 研究の目的

本研究は、保育者養成課程における学生による子ども向けコンサートの取り組みとその実践過程を示したものである。その具体的な展開方法や学生の取り組みについて明らかにするとともに、これらをとおしてこのような取り組みによる教育効果について考察したものである。

本学こども学科は、教育目標を「こどもの保育や教育及びこどもに関する諸課題に適切に対処できる技術や実践力を身につけた人間性豊かな人材の育成」と掲げ、保育・教育等にかかわる優れた実践力を有する保育士、幼稚園教諭、小学校教諭を養成する学科である。2014年度からは、保育コース、音楽コース、教育コースのコース制となり、独自のコース専門科目や学科推奨科目を開設し、指導者としての感性と人間性を豊かにする学びや実践的・体験的な学修を重視した教育課程を編成している。コース専門科目では、自主的で対話的な深い学びを重視し、高度な専門的な知識やスキルのほか、コミュニケーション力を高める学修をおこなっている。また、全コースとも音楽や美術などの芸術鑑賞会、研修旅行、マナー講習会、大学祭での「こどもの国」、卒業生を送る会、新入生を迎える会などの行事をとおして、感性を磨き、保育者として子どもの心を豊かに育むために必要な表現力や創造力を高めている。なかでも、大学祭の中で開催する「こどもの国」は、2年間の課程において、大きな学びとなる行事の一つである。「こどもの国」は、こども学科で長年受け継がれている取り組みで、地域の親子を対象にした子ども向けの遊びの広場やコンサートを担当教員の指導のもと、各クラスの実行委員を中心に、1年次の学生が主体的に企画・運営するイベントで、来場する子どもや保護者とかかわることができる貴重な場である。多くの来場者が訪れており、毎年200~300組の親子が来場している。コース制を導入してからは、各コースの特色を生かした取り組みを中心におこなって

*北翔大学短期大学部こども学科

おり、保育コース（4クラス）は乳幼児、教育コース（1クラス）は年長児や小学生を対象とした遊びの広場を企画し、的あてや魚つりなどのゲームやマラカス作りなどの製作活動のほか、パネルシアターやペープサートの発表など、子どもが楽しめる工夫を盛り込んだ学生考案のさまざまな遊びのコーナーを設置している。音楽コース（1クラス）は、子ども向けのコンサートを企画し、楽器や歌の演奏、オペレッタ、子どもたちと一緒に楽しめるダンスなどを発表している。

本稿では、2014年度から2018年度までの音楽コースの学生がコースの特色を生かして取り組んだ「こどもの国」における子ども向けコンサートを取り上げ、その内容と振り返りをまとめ、教育的効果について考察する。

1-2 研究の方法

本研究にかかる授業実践・アンケート調査は、以下のように実施した。

- ①実施校：北翔大学短期大学部こども学科
- ②実施年度：2014年度～2018年度
- ③実施主科目：保育内容演習Ⅰ
- ④実施学年：音楽コース1年

Ⅱ 音楽コースの特色とこどもの国コンサート取り組みの概要

2-1 音楽コースの特色

音楽コースは、コース専門科目に、リトミック、音楽療法、子どもの歌や合奏の研究など、音楽を専門にした独自科目を設置しており、日々の保育活動に欠かすことのできない音楽分野の研究を深め、乳幼児の発達に即した楽しい音楽活動を展開することができる知識と技術を身につけ、表情豊かで実践力のある保育者を目指すコースである。音楽発表などを体験しながら、子ども理解と音楽活動の研究を深め、保育者に必要な技術を身につけ、感性と豊かな表現力を磨くことを特色としている。

2-2 実施科目とコンサート取り組みの実践

「こどもの国」の取り組みは、保育内容演習Ⅰ（全15コマ）を中心におこなう。保育内容演習Ⅰは1年前学期科目で、保育内容の総合的な理解を目指し、子どもの発達過程に応じた遊びの内容や環境構成について学び、実践する場として「こどもの国」の企画・運営をおこなう学科推奨科目である。まず、全コースとも、学科行事「こどもの国」について、行事の意義、子どもの発達過程と子ども理解、環境構成、チーム活動における心構え、教材の使用法と工夫、計画と評価、遊び案作成などの講義をおこない、クラスごとに取り組みの企画案を作成する。また、入学したばかりの1年生が準備をしていくにあたり、保育原理、保育者論、保育内容表現、音楽表現、身体表現などの科目と連携し、上述の内容の理解をさらに深めていく。クラスごとの企画案がまとまった後、基礎教育セミナーⅠと連携し、計10コマ程度の時間で準備をおこなう。

音楽コースの企画・準備は、プログラムを検討することから始まる。過去のコンサートの様子を鑑賞して参考にしながら、40～45分程度の内容を筆者ら指導教員の助言のもと、学生が選曲して決めていく。毎年、大きく分けて、①器楽、②うた、③手遊び、④オペレッタまたは音楽劇、⑤ダンスまたは体操、などを中心とした内容で構成している。

選曲は、子どもに人気のある曲や子どもに歌い継ぎたい曲、子どもが楽しみながら見てくれる物語など、全体構成を考えながら、クラス全員で検討する。選曲後、各ジャンルの内容や演奏時間、ステージの環境構成や演出を検討しながら、演奏順を決めていく。

①器楽は、器楽合奏、ベル、トーンチャイムなどの曲を演奏している。器楽合奏は、ピアノ、リコーダー、アコーディオン、鍵盤ハーモニカ、パーカッション（鉄琴、木琴、小太鼓、大太鼓、タンブリン、カスタネット、すず、トライアングル、タンブリン、カバサ、マラカス、ギロなど）を中心にしたもので、その他、その年度の在学生の演奏経験により、フルート、クラリネット、サクソフーン、ユーフォニアム、チューバ、ギターなどを入れ、子どもたちにさまざまな楽器の紹介と音色を楽しんでもらう工夫をしている。曲は、学生自身が幼少時によく耳にし、現在も子どもに人気がある曲やアニメ映画の主題歌などを中心に選んでいる。また、ベル、トーンチャイムは、それぞれの美しい響きを親しみやすい曲で披露している。これらの楽器は、幼児の音楽活動の中でもよく取り入れられており、学生が将来、保育現場で指導する上で役立てられるように、楽器の特徴と演奏法を研究しながら練習していく。

②うたは、子どもたちが知っている歌をただ歌うだけではなく、子どもたちに楽しんで聴いてもらうために、小道具を用いたり、学生が考案した振り付けや手話をつけたりして演奏している。また、子どもたちと一緒に歌う場面を織り交ぜるようにし、子どもの歌声や身振り手振りを間近で観察し、子ども理解を深めることができるよう工夫している。

③手遊びは、幼稚園や保育所の日常の保育の中で毎日のように取り入れられており、子どもたちは大きな声を発し、言葉と動きを楽しみながら遊ぶ活動である。手遊びは、保育内容表現や音楽表現などの授業でも学ぶが、子どもたちに手遊びを紹介し、その手順をわかりやすく教えながら展開していくためには、どのような言葉と動きが良いか、また、どのような表情で語りかけるのが良いかを研究し、準備を進めていく。

④オペレッタまたは音楽劇は、全体の中で演奏時間が長く、コンサートの中心となるジャンルである。オペレッタまたは音楽劇は、学生がもっとも取り組みたいと考えているジャンルで、毎年、時間をかけて作り上げていく。演目は既成の作品のほか、学生が台本を書いたオリジナル作品や担当教員が付曲した作品を織り交ぜる年度もある。配役については、学生たちが話し合いで決める場合と、歌の比重が多い作品では、オーディションをして指導教員が決める場合がある。オーディションは、クラス全員の歌声をみんなで聴き合うことができ、学生の意識が高まる動機づけとなり、一人ひとりの声やキャラクターを生かした配役を検討することができる。伴奏はピアノだけの場合や、物語の流れを色彩豊かに演出するために、いくつかのパーカッションを入れる年度もある。また、視覚的にも楽しめるような舞台美術を研究し、草木やドア、

背景パネルなどの大道具，木こりの斧やパンなどの小道具，動物や虫のお面，王様や村人などの衣装を，材料を工夫しながら製作していく。

⑤ダンスまたは体操は，コンサートをじっと聴いている子どもたちが，立ち上がり，ここぞとばかりに身体を大きく動かして楽しむことができ，大変盛り上がるプログラムである。音楽表現や身体表現の授業でも学んだ内容を生かしながら，選曲していく。PEテープで作製したポンポンを子どもたちに配り，揺らしながら楽しめる振り付けを工夫し，一緒に踊って楽しむ年度もある。

各年度のコンサートの，①開催年月日，②プログラム，③学生数を表1に，当日の発表の様子を写真1～6に示す。なお，いずれの年度も，開催場所は本学音楽室で，1日2公演（11：00～，13：00～）おこなった。

学生たちは自分たちが企画したプログラムを子どもたちに楽しんで観てもらいたいという目

表1 コンサート プログラム

年度	①開催年月日	②プログラム	③学生数
2014	2014年 8月3日(日)	<ul style="list-style-type: none"> ・器楽合奏「Let it go ～ありのまままで～」 ・うた「ジャングルポケット」「ふしぎなポケット」 ・トーンチャイム「クラリネットをこわしちゃった」 ・ベル「山の音楽家」 ・手遊び「パンダ・うさぎ・コアラ」「ミックスジュース」 ・オペレッタ「オオカミと9匹の子ヤギ」 ・うた「手のひらを太陽に」 	音楽コース 24名
2015	2015年 8月1日(土)	<ul style="list-style-type: none"> ・器楽合奏「ミッキーマウスマーチ」「おもちゃのチャチャチャ」 ・合唱「はじめの一步」 ・手遊び「一匹のあおむしが」 ・音楽劇「ひらりとふわりん」 ・うた「地球のシンフォニー」「世界中のこどもたちが」 	音楽コース 32名
2016	2016年 8月6日(土)	<ul style="list-style-type: none"> ・器楽合奏「バロック・ホーダウン」 ・手遊び「いっぴきののねずみ」 ・音楽劇「ぶーちゃんのおつかい」 ・体操「サンサンたいそう」 ・うた「世界中のこどもたちが」 	音楽コース 23名
2017	2017年 9月30日(土)	<ul style="list-style-type: none"> ・器楽合奏「ディズニー・メドレー」 ・ベル「星に願いを」 ・手遊び「やまごやいっけん」 ・オペレッタ「金のがちょう」 ・ダンス「ハッピージャムジャム」 ・うた「世界中のこどもたちが」 	音楽コース 13名
2018	2018年 9月29日(土)	<ul style="list-style-type: none"> ・器楽合奏「バロック・ホーダウン～風のとおり道～ハイ・ホー」 ・ベル「クラリネットをこわしちゃった」 ・手遊び「いっぴきののねずみ」 ・オペレッタ「うかれバイオリン」 ・体操「エビカニクス」 ・うた「世界中のこどもたちが」 	音楽コース 15名



写真1 2014年度 うた



写真2 2015年度 器楽合奏



写真3 2016年度 手遊び



写真4 2016年度 体操



写真5 2017年度 オペレッタ



写真6 2018年度 ベル

標を掲げて、毎年、クラスメイトと積極的に意見交換をし、励まし合いながら、授業時間外での個別やグループ練習にも力を入れて取り組み、仕上げていく。

Ⅲ 本実践による教育効果の考察

3-1 アンケート調査項目

コンサート終了後、アンケート調査（以下の調査項目①～④）による振り返りを、全年度、開催当日に実施した。また、コンサートで取り組んだ成果が、その後、どのように生かされているのかを調査するために、2017年度と2018年度にコンサートの取り組みを実践した学生に、アンケート調査（以下の調査項目⑤）を2019年1月におこなった。

〈調査項目〉

- ①準備活動の中で、特に大切にしたことや意識したことを記入してください（自由記述）。
- ②協働の視点から気づいたことを記入してください（自由記述）。
- ③当日の子どもとのかかわりや子どもの姿から、子どもの表現や行動に対する気づきや子ども理解について学んだことを事例を挙げて記入してください（自由記述）。
- ④こどもの国の企画・運営全体をとおして学んだことや、保育者を目指す者として、今後に役立てたいと思えることを記入してください（自由記述）。
- ⑤こどもの国のコンサートで取り組んだ成果は、その後、どのような場面で生かされたか記入してください（自由記述）。

3-2 アンケート調査結果と考察

アンケート調査結果（要約・抜粋）を表2に示す。

調査項目①に関する内容については、「(01) お客さんの前で発表する自覚を持ち、本番を見据えた練習を心がけることが大切である。」「(02) オペレッタでは、自分が出ないシーンでも把握しておかないと、練習の過程で雰囲気が変わったりしたときに対応できないので、常に全体をわかっておくことが重要である。」の記述から、企画や意図をしっかりと理解し、全体を俯瞰しながら広い視点で活動にあたっていたことがわかる。「(03) 劇やオペレッタでは役柄の性格がはっきり伝わるように、表情、声量、台詞の話し方に気を使った。」「(04) 司会は子どもたちに語りかけるように、ゆっくりと話すことが大切である。」「(05) 恥ずかしがらないで演じること。」の記述からは、自分の表現したいことを相手にどのように伝えたら良いのかを模索しながら、試行錯誤している様子うかがえる。また、造形表現などの授業では、製作物の創作において、常に丁寧に作るよう指導されているが、「(06) 子どもたちに楽しんでもらえるように、大道具、小道具は丁寧に作るように心がけた。」「(07) 子どもの目線を意識した舞台づくりや、プログラムにふさわしい装飾を大切にした。」の記述から、普段の授業を生かして取り組んだことがうかがえる。「(08) 器楽合奏では、主旋律の部分と伴奏の部分のバランスがふさわしいか良く聴きながら演奏した。」の記述からは、音楽の構造を理解して表現に生かそうという意欲がみられる。良い演奏の基本は、しっかり読譜をした上で、よく音を聴くことである。相手の音を聴き、考えながら演奏することが演奏力の向上につながっている。「(09) 限られた準備期間で完成度を高められるように、時間の大切さを意識して計画を立てた。」の記述からは、時間配分を考えて計画性を持って取り組もうとする姿勢がみられる。

調査項目②に関する内容については、「(10) 些細な言葉がけなどで発表への緊張が軽減したので、周囲の仲間にも同じように思いやることが大切である。」「(11) 良い雰囲気準備ができるように、仲間への思いやりをもって発言したり行動したりした。」「(12) 発言するときは自分が言われて気持ちが良いか考えるようにした。」の記述から、活動を通して、協働の土台である相手を思いやる心の大切さを感じ取っていることがうかがえる。「(13) 自分の思いつか

表2 アンケート調査結果(要約・抜粋)

調査項目①「準備活動の中で、特に大切にしたことや意識したこと」に関する回答

- (01) お客様の前で発表する自覚を持ち、本番を見据えた練習を心がけることが大切である。
- (02) オペレッタでは、自分が出ないシーンでも把握しておかないと、練習の過程で雰囲気が変わったりしたときに対応できないので、常に全体をわかっておくことが重要である。
- (03) 劇やオペレッタでは役柄の性格がはっきり伝わるように、表情、声量、台詞の話し方に気を使った。
- (04) 司会は子どもたちに語りかけるように、ゆっくりと話すことが大切である。
- (05) 恥ずかしがらないで演じること。
- (06) 子どもたちに楽しんでもらえるように、大道具、小道具は丁寧に作るように心がけた。
- (07) 子どもの視線を意識した舞台づくりや、プログラムにふさわしい装飾を大切にしたい。
- (08) 器楽合奏では、主旋律の部分と伴奏の部分のバランスがふさわしいか良く聴きながら演奏した。
- (09) 限られた準備期間で完成度を高められるように、時間の大切さを意識して計画を立てた。

調査項目②「協働の視点から気づいたこと」に関する回答

- (10) 些細な言葉かけなどで発表への緊張が軽減したので、周囲の仲間にも同じように思いやることが大切である。
- (11) 良い雰囲気や準備ができるように、仲間への思いやりをもって発言したり行動したりした。
- (12) 発言するときは自分が言われて気持ちが良いか考えるようにした。
- (13) 自分の思いつかないような演出があったので、いろいろな人のアイデアを大切にしたい。
- (14) お互いにできていない部分を補い合うことで、協調性が身につく、クラスの団結力が深まった。
- (15) 会場の飾りづけをするときに、手の空いている人から率先して仕事を探したり、同じ仕事に被っているときは分担したり、臨機応変に対処できた。
- (16) なんでも引き受けるのではなく、できないことは任せ、できることは自分でおこなう。
- (17) 良いものを作るためには、円滑な人間関係が肝心だと思った。

調査項目③「当日の子どもとのかかわりや子どもの姿から、子どもの行動や表現に対する気づきや子どもの理解について学んだこと」に関する回答

- (18) あらためて子どもは音楽が大好きで、音楽は子どもの心を豊かにするものだということがわかった。
- (19) 子どもの年齢によって、音楽に対する反応が違って興味深かった。
- (20) 体操やダンスでは立ち上がって一緒に身体を動かしてくれて、嬉しかった。
- (21) 手遊びを子どもたちに教えるときは、ゆっくりと言葉かけをすることで覚えてもらえた。
- (22) 器楽合奏では、音が大きかったために耳をふさいでいた子どもがいた。
- (23) プログラムの構成は、子どもたちが座っているだけではなく、立って踊れるような演目を盛り込んだことにより、最後まで集中して聴いてもらうことができた。
- (24) 会場に設置した子ども用の小さい椅子や、壁面の装飾の可愛らしいものに子どもが大きく反応していて、子どもの喜ぶもの、興味をひくものが何かを知ることができた。
- (25) 子どもと同じ目線に立ち、笑顔で対応すると、子どもの方からたくさん話しかけてくれた。
- (26) 子どもが自分から話せる状態を作っておくことも大事であると思った。
- (27) 子どもによっていろいろな反応がみられた。それぞれに対応できる保育者になりたいと思った。
- (28) 授業だけではわからなかった子どもたちの表情や行動を知ることができた。
- (29) 子どもたちの目や表情から、楽しんでいる気持ちが言葉以上に伝わってきた。

調査項目④「こどもの国の企画・運営全体を通して学んだことや、行事の意義について、保育者・教育者を目指すものとして今後役に立ちたいと思えること」に関する回答

- (30) 準備の過程では、意見がまとまらなかったり、台詞が覚えられなかったり、苦労することもたくさんあったが、一つのことを協力して取り組むことの大変さ、楽しさを改めて知ることができた。
- (31) 今回のコンサートをとおして、普段の講義や演習では得られないやりがいがあり自信がついた。何をやるか考える経験と過程が実習にも生かせると思う。
- (32) 発表にあたっては、自分自身が楽しむことはもちろん、それ以上に子どもたちや保護者が楽しんでくださることを考えることが大切だと感じた。
- (33) 子どもたちへの配慮はもちろん、保護者の方々に安心して聴いていただけるよう心がけたいと思った。
- (34) オペレッタでは、表現を豊かにするために、音楽表現や身体表現などで学んだことが役に立ったので、今後も学びを深めていきたい。
- (35) コンサートの経験を、今後の授業や実習はもちろん、ボランティア活動などにも生かしたい。
- (36) 保育者になってから、園の行事において保育者同士で協力しながら物づくりや練習があると

思うので、今回の経験と活動を生かしていきたい。

- (37) 子どもや保護者とふれ合うためには、コミュニケーション力を高める必要があると感じた。
- (38) このような行事は、クラスが団結して一つのことを作り上げることで、終わった時に達成感を得られる大切なものだった。

調査項目⑤「こどもの国のコンサートで取り組んだ成果は、その後、どのような場面で生かされたか」に関する回答

- (39) 表現力が身につくとき、他の講義での発表や発言に生かすことができた。
- (40) オペレッタで身につけた表現力や技術が紙芝居や絵本を読む時に役に立った。
- (41) 子どもたちとかかわったことで、リトミックの授業などで子どもの姿を想像しやすくなった。
- (42) 卒業生を送る会などの行事や高齢者福祉施設でのクリスマスコンサートに生かすことができた。
- (43) 楽器の演奏技術が上がり、練習することがますます楽しくなった。
- (44) 音楽の楽しさや素晴らしさを伝えられる保育者になりたい気持ちが一層強くなり、何ごとにも挑戦することが楽しくなった。
- (45) 人前に立つことに対しての不安や緊張感が少なくなった。
- (46) 実習で子どもたちや先生方の前で歌う時に、あまり緊張せずにできた。
- (47) 実習で音楽活動を展開する際に、こどもの国で自分たちが考案した振り付けを取り入れたら、子どもたちがとても楽しんでくれ、嬉しかった。

ないような演出があったので、いろいろな人のアイディアを大切にしたい。」「(14) お互いにできていない部分を補い合うことで、協調性が身につく、クラスの団結力が深まった。」「(15) 会場の飾りづけをするときに、手の空いている人から率先して仕事を探したり、同じ仕事が被っているときは分担したり、臨機応変に対処できた。」「(16) なんでも引き受けるのではなく、できないことは任せ、できることは自分でおこなう。」「(17) 良いものを作るためには、円滑な人間関係が肝心だと思った。」の記述からは、個人ではなく集団でおこなう準備をとおして、発案力、協調性、団結力の向上が生まれ、自主的に考えて活動する力につながっていることが読み取れる。

調査項目③に関する内容については、「(18) あらためて子どもは音楽が大好きで、音楽は子どもの心を豊かにするものだということがわかった。」「(19) 子どもの年齢によって、音楽に対する反応が違って興味深かった。」「(20) 体操やダンスでは立ち上がって一緒に身体を動かしてくれて、嬉しかった。」「(21) 手遊びを子どもたちに教えるときは、ゆっくりと言葉がけをすることで覚えてもらえた。」「(22) 器楽合奏では、音が大きかったために耳をふさいでいた子どもがいた。」「(23) プログラムの構成は、子どもたちが座っているだけではなく、立って踊れるような演目を盛り込んだことにより、最後まで集中して聴いてもらうことができた。」「(24) 会場に設置した子ども用の小さい椅子や、壁面の装飾の可愛いものに子どもが大きく反応していて、子どもの喜ぶもの、興味をひくものが何かを知ることができた。」の記述から、音楽が子どもの心を育むことや一人ひとりの子どもの反応の違いや特徴を細やかにとらえ、子ども理解を深めていることがわかる。「(25) 子どもと同じ目線に立ち、笑顔で対応すると、子どもの方からたくさん話しかけてくれた。」「(26) 子どもが自分から話せる状態を作っておけることも大事であると思った。」「(27) 子どもによっていろいろな反応がみられた。それぞれに対応できる保育者になりたいと思った。」「(28) 授業だけではわからなかった子どもたちの表情や行動を知ることができた。」「(29) 子どもたちの目や表情から、楽しんでいる気持ち

が言葉以上に伝わってきた。」の記述から、子どもの多様性の一端を理解し、コミュニケーションをとるために必要なことを学んだことがうかがえる。

調査項目④に関する内容については、「(30) 準備の過程では、意見がまとまらなかったり、台詞が覚えられなかったり、苦勞することもたくさんあったが、一つのことを協力して取り組むことの大変さ、楽しさを改めて知ることができた。」「(31) 今回のコンサートをとおして、普段の講義や演習では得られないやりがいがあり自信がついた。何をするか考える経験と過程が実習にも生かせると思う。」の記述から、準備では大変なことも多々あったが、協力して作り上げることの楽しさ、また普段の授業では得られないやりがいを感じ、自信がついたことがわかる。「(32) 発表にあたっては、自分自身が楽しむことはもちろん、それ以上に子どもたちや保護者が楽しんでくださることを考えることが大切だと感じた。」「(33) 子どもたちへの配慮はもちろん、保護者の方々に安心して聴いていただけるよう心がけたいと思った。」の記述からは、子どもたちへの意識はもちろん、保護者への配慮が必要であることを学んだことがうかがえる。「(34) オペレッタでは、表現を豊かにするために、音楽表現や身体表現などで学んだことが役に立ったので、今後も学びを深めていきたい。」「(35) コンサートの経験を、今後の授業や実習はもちろん、ボランティア活動などにも生かしたい。」「(36) 保育者になってから、園の行事において保育者同士で協力しながら物づくりや練習があると思うので、今回の経験と活動を生かしていきたい。」の記述からは、今回の経験を今後の学びに生かしていきたいという建設的な意識の成長が読み取れる。「(37) 子どもや保護者とふれ合うためには、コミュニケーション力を高める必要があると感じた。」の記述からは、自分自身のコミュニケーション力の足りなさを認識し、保育者にはコミュニケーション力が大切だということを学んだことがうかがえる。「(38) このような行事は、クラスが団結して一つのことを作り上げることで、終わった時に達成感を得られる大切なものだった。」の記述は、まさに、こどもの国コンサートの大切な意義を集約したものといえよう。行事を作り上げていくことが、達成感をもたらし、広く深い学びにつながっている。

調査項目⑤に関する内容については、「(39) 表現力が身につく、他の講義での発表や発言に生かすことができた。」「(40) オペレッタで身につけた表現力や技術が紙芝居や絵本を読む時に役に立った。」「(41) 子どもたちとかかわったことで、リトミックの授業などで子どもの姿を想像しやすくなった。」「(42) 卒業生を送る会などの行事や高齢者福祉施設でのクリスマスコンサートの企画・準備に生かすことができた。」の記述から、コンサートの取り組みで身につけた表現力や技術が他の講義や実技、行事などで生かしていることがわかる。また、子どもとかかわったことにより、子どもの姿を想像する力が高められたことがわかる。「(43) 楽器の演奏技術が上がり、練習することがますます楽しくなった。」「(44) 音楽の楽しさや素晴らしさを伝えられる保育者になりたい気持ちが一層強くなり、何ごとにも挑戦することが楽しくなった。」の記述から、音楽の演奏技術はもちろんのこと、さまざまな保育活動の展開法や指導法を身につけたいという意欲と向上心が高まっていることがわかる。「(45) 人前に立つことに対

しての不安や緊張感が少なくなった。」「(46) 実習で子どもたちや先生方の前で歌う時に、あまり緊張せずにできた。」「(47) 実習で音楽活動を展開する際に、こどもの国で自分たちが考案した振り付けを取り入れたら、子どもたちがとても楽しんでくれ、嬉しかった。」の記述から、入学したばかりの1年前学期に大きな行事に取り組み、人前に立つ経験を積むことが、緊張や不安を乗り越える力を養い、実習にも生かされていることがうかがえる。

IV お わ り に

今回の研究をとおして、コースの特色を生かした取り組みは、大変意義があり、学生にとって、多角的な学びの力になっていることが明らかである。年度によっては、準備段階で小さな問題が大きな人間関係の拗れにつながりかけたこともあるが、クラスメイトを思いやること、また言葉がけを大切にして全体の雰囲気の良い状態に保とうと努めていることがわかる。個人だけではできないことを、意見交換をとおして集団だからこそなし得ることを探求し、アイデアを上手に取り入れていたようである。コンサートでは、演奏しながら、会場の子どもたちや保護者の様子を非常によく観察している。子どもは歌ったり踊ったりすることが好きであるが、個性や年齢による反応の違いを実体験することは、保育者を目指す学生には大きな刺激となったといえる。また、子どもに対してわかりやすい話し方、同時に保護者にも納得していただけるような伝え方やコミュニケーション力の向上を目指すことは、将来現場に立つ時に有益である。さらに、クラスで一つのことに向かっていく活動が団結力を生み、学生の満足度や達成感が高まったことは、相手を思いやる気持ちを大切にしながら、人間力を成長させたといえよう。2年次の実習や卒業後の進路に向け、仲間と励まし合いながら、保育や音楽の技術をさらに高めていきたいという向上心につながっている。大きな成果をもたらしている「こどもの国」におけるコンサートの実績が、さらに多くの学生にとって実践的な学びの機会となるよう、保育者養成課程における科目や行事のあり方とその意義についての研究を続け、進化を目指したい。

参 考 文 献

- 1) 清水桂子, 橋本卓三, 高橋さおり: 保育者養成課程における実践的な学びと総合的な理解を目指してー [こどもの国] の取り組みからー, 北翔大学短期大学部研究紀要第53号, pp79-87, 2015